

講演会



会員の中に入り、食いつかばかりに語る近藤巧先生



編集発行
羽津北小学校
PTA広報
印刷
阿竹印刷工業株

第 23 号



PTA活動の主要行事である手作り作品展・講演会が、十一月十七日多数の会員の参加のもとに、本校体育館で開かれました。以下に講演のあらましを記します。

「恥づかし」が忘れられない

最近、登校拒否や「いじめ」が深刻な社会問題になっている。これは家庭教育の欠陥に原因がある。ある時、登校拒否児童の家庭から連絡を受けて訪ねたが、その家庭は散らかり放題だった。連絡を受けてからその家庭に着くまでにはいくらかの余裕があったのだから、少しはかたづけしておけばよいものを。そのような家庭を他人に見せて恥づかしいと思つて気が欠落しているのではないか。古来日本には「恥の文化」があった。「宿題を忘れて立たされる」、「職員室に呼ばれて帰りが遅れる」等は恥づかしいことであつたが、現在は何とも思わないようだ。笑い事ではない本当の話。あるクラスで先生が宿題を出した。生徒が拒否反応を示したので、先生が「宿

題のいやな生徒は帰りに職員室の廊下に座っていたら」と冗談を言つたら、40人中16人がそのとおりにしたとのこと。恥づかしさを忘れたちやらんばらんな親に、わがまま一杯に育てられた結果といえる。

子について母は最初の教師

父親の子育てにおける本当の意味での出番は、小学校三、四年生からで、それまでの責任は母親の側にある。子供にとって母は最初の教師である。今や圧倒的に長男長女時代で、わがままに、また友達をつくれぬように育てられてきた。このことが登校拒否や「い

今我子の親なれば

— あなたの家の子育てを考える —

近藤 巧先生

親が身をもって示そう

「いじめ」の問題につながっていく。それでは数少ない我が子をどうしたらたくましく育てられるか。グズ、のろま、泣き虫は遺伝しない。要は親の育て方一つである。年令に応じた我慢を教える必要がある。「発達課題」を理解させる
父親は子育てを大局的にみる必要がある。子育ての評価は十八才になつてやつとできる。男児ならばその時に「俺泣いていない」と横袖で涙のふける人であり、女兒ならば相手の気持ちを一歩先読みできる人であれば、子育ては成功といえる。それにはどうすればよいか。子供の成長にみあつた発達課題（人生の越えるべきハードル）を正しく理解させることである。成長過程に応じて発達課題も異なる。少年期は遊びを通じて活動性と創造性を培い、青年期には自己の確立を図る必要がある。自己の確立のために重要なものは、親の子育ての構え方、友達、よい教師と出合いの三点である。子供は親のいつようにはならなくても、親のすることは真似る。子育ての構え方が大切な理由はここににある。よい友達を多く作れるような、また自分の一生に大きく影響するような先生との出合いを敏感に受け止められるような子育てがなされているかどうかも大切である。

健全育成が叫ばれている。それは「保護・保育」、「教育・指導」「影響感化」の三つから成る。家庭での教育にとつて重要なものは、食事の作法、挨拶、整頓といった基本的な生活習慣を身につけること、それ以上とくなく、言つた必要はない。

影響感化とは、口であらうことうしろと言つたのではなく、親が身をもって示すことである。親の働く真剣な姿を子供に見せること、子供の成長にとつて大切である。



ウーン耳の痛いことを言うなあ

耳の痛い中にも示唆に富む教訓

二年親 長井 春江
十一月十七日(日) 授業参観のあと、北勢教育事務所の近藤巧先生の講演を聞きました。

教育問題については、最近マスコミでも取り上げられることが多い、つい堅苦しくなりがちですが、先生の教師時代の体験を通し、ユニモアを交えて、お話しして下さいました。先生のお話の中には、私にとつて、耳の痛いことも数多くありました。なかでも、子育てにおける両親(特に母親)の役割と、子どもに対する影響の大きさをあらためて痛感し、親としての努力と忍耐が足りないといつくづく反省させられました。

今回は「今、我子の親なれば」というテーマでしたが、家庭での親子のふれ合いをより大事にしていきたいと思えました。

主人と二人で講演を聞くことができ、大変有意義な両親学級だったと思います。

親の未熟さ痛感

三年親 高原 文江
去る、十一月十七日、近藤巧先生を迎えて、「今、我が子の親なれば」と言う演題で講演会が開かれました。先生の貴重な体験をふま

えての迫力ある、又、数々のユニークなお話に感動しました。先生のお話を私なりに要約しますと、次の様でした。子供の育成と言うものは、学校にすべてを任せるとではなく、家庭内でのしつけ(挨拶、食事作法、整頓)が最も重要なこと、子供は遊ぶ事も仕事のひとつであり、注意、指示、命令は、程々にしなければいけないこと等でした。私も一人の親として、かなり反省させられる点が多く、恥ずかしいことですが、親としての未熟さをつくづく感じさせられました。

あなたは、親として合格ですか。最後に、父親12ヶ条を記しますので参考にして下さい。

- 一、父親は一家の知性。
- 二、強い人間は、自分に厳しいことを教えよう。
- 三、父親は勇気を持って、挑戦させる機会を与えよ。

- 四、友情はかけがえのないことを知らせ。
- 五、子供と一緒に汗を流す。
- 六、健康でやる気を出す。
- 七、手を離しても、目を離さない。
- 八、子供と共に感動する。
- 九、耐えることを教えよう。
- 十、励ましの言葉を与える。
- 十一、父と子供の対話を持つ。
- 十二、本を読む姿を見せる。

子育てに環境の大切さ

四年親 寺村 由里子
授業参観のあと体育館で講演を聞きました。いつになくお父様方の人数の多いのにはびっくり。

「よい学校、よい家庭にはよい子が育つ」、確かに子供が育つていく環境の大切さを再認識しました。講演会の中で講師の先生がおっしゃった地域の横のつながり、各家庭のつながりは、とてもよい環境作りになるといふこと。両親が共働きの家庭の多い中、ゆとりの心を持つて子供に接してあげることは大切なことだと思います。私自身もいつも心にとめて心掛けたいものです。

先日ある講演会で同じようなお話を聞く機会がありました。「子はかすがい」と教えられました。まさに子供によって親同士のつながりができるものです。幼児の頃の純粋な心の子供達を思い出し、いつまでもあなたが目で見つめていきたいと思えます。

子供の学校生活を垣間見た一日

栗田 道弥

わが家には、四人子供が居て、このうち長男(五)長女(三)二女(一)の三人が、羽津北小学校にお世話になってます。私の子供の頃は、鉄筋コンクリートの三階建ての校舎は市内でも殆んどみ

うちの子もがんばってる!



先生、当ててよ!



窮屈な感じがしました。児童作品展について特に粘土細工は、私も参加し子供の頃から関心がありましたので、充分な観察が出来ました。子供の自由な発想での作品展は、子供の個性を知るのに役立ち、また子供が一所懸命に作った作品であれば成長しても大事に保存すると思われ、これからも続けて欲しいと思います。図画

なかつた時代ですので、現在の小学校は近代設備が整っていて少々羨ましく思いましたが、授業風景は時代が変われども昔と変わらず、子供の頃をなつかしく思い出しました。

授業参観は、かけ足で二人の教室を回りましたので、ただわが家の子供の授業態度を観ただけですが、教室の後ろに父兄が一杯では、教室では充分観れず、出来れば全員作品を一同に展示される事を要望します。講演会につきましては、近藤先生の熱弁を賜わり、子どもにとつて母親の存在の大きさを改めて知らされました。反面父親の役割や先生御自身の家庭教育での体験談を頂戴致したく思いました。有意義な機会を戴き皆様に感謝致します。

五年生熱唱

三泗小中音楽会

やさしさで

楽しさをめざして

音楽担当 松岡 節子

やさしさには「小さな木の実」。楽しさには「ぼくの文鳥」。八分の六拍子の落ち着いたリズムに「やさしさ」をかみしめ、ペットとして飼っている文鳥のかわいい歌声に「楽しさ」を求めて選曲しました。

一組の歯切れのよいすぎ透つた歌声。二組の丸くてやわらかい歌声。三組の低くて深みのある歌声。こんな三組三組の特性を生かした立体的な構想を描いて、合唱練習をはじめました。

三つの合同は簡単にはとけ合いませんでした。それぞれの力を張り合っているせいも、バランスがとれず、大へん苦労しました。各自が各パートをしつかりと身につけお互いに相手のパートを



102の歌声が一つになって

味わいながらそれぞれが同じ力で作り上げるよう努力しました。その結果二つの和音、三つの和音をばつちりときめ、指揮棒を振っている私の目に子供らしい生き生きとした一〇二のいい顔を見つけたことができました。心の中で全員に拍手を送り発表を終わりました。

一組 加藤 真

ぼくたちは、文化会館に、五年全員で行ってきました。ぼくたちは、一番目だったので、すべ、口ビーにならびました。そのとき、心ぞうがドキドキしてきたので、「本に書いてあった」、落ち着く深きゆうをしました。落ち着いたので、よかつたと思いました。スポットライトがまぶしくて、あせをいっばいかきました。ぼくは、スポットライトがこんなにあついたら、知りませんでした。歌も、上手に歌えて良かつたと思いましたが、ぼくは、また、歌を歌いに、文化会館に行きたいと思えます。

一組 蔵本 真紀

三泗音楽会一番目、私たちの番が来て、ステージに向かい、歩きだした。その時、手足がふるえ、「ブルツ」とした。ステージにつき、会場はまっ暗、用意ができるよ、「はっ」と明るい光がふりそそいだ。手足のふるえはとまり、歌を歌う時がきた。先生がひとりすると、ピアノがなり、次は歌う番だ。始めの方は、声が小さかつたけれど、だんだんと声が大きくなつてよかつた。次は「ぼくの文鳥」。私はいつもより高い声が出てよかつた。心の中で、「はー」とため息をついた。

三組 直井あゆみ

音楽会が始まり、一番目の学校が歌っている時、私はとても心が落ち着かなくて、ソワソワしていました。一番目が終わり、次は、いよいよ私達の番です。いっそう強くきん張するのが感じられました。ぶ台に出て整列した時、みんなはギュッと手をにぎっていました。顔は真剣そのものでした。私も手をにぎりしめ、松岡先生のタクトを見つめました。

無事、「小さな木の実」と「ぼくの文鳥」を歌い終え、「はっ」として、体の力がぬけたような感じでした。

—はり絵教室雑感—

見直した、はり絵の素晴らしさ

伊藤 明美(二年一組担任)

少し前の話になりますが、夏休みの八月十七日、筒井先生の御指導のもと、はり絵教室が開催されました。

私自身はり絵の経験という、幼稚園か小学校の低学年ぐらいの時に、画用紙に色紙をへたへたはつた程度でした。チューリップとか、ちようちようの形を切り抜いてはつたもので、クレヨンで色をぬる代わりに、色のついた紙をはつただけでした。

ところが、当日筒井先生にお手本の作品を見せていただいて、私は驚きました。はり絵とはこんな素晴らしいものなのか、小さい時やつたのは、いったい何だつたのだらうと思いました。

何色かの和紙をはり合わせてでき上がったものは、まるで絵の具立派なのは額縁だけではありません



立派なのは額縁だけではありません

で描かれた絵のようでした。ぺちやんこの一枚の紙きれが、立体感を持ったものに変身できるのが、私は不思議でたまりませんでした。そして、筒井先生が作り方を説明されたあと、いよいよはり絵作りが始まりました。親子で仲良く一つの作品を作る組・親子別々に作品を作る組、さまざまでした。私も実際に作ってみました。柿を作ってみました。枝の形がどうもうまく作れませんでした。和紙を長細く手で切り取ることは、難しいようです。

どうにか作品を仕上げてみましたが、他の作品と比べて自分の作品は、えらくお粗末だなあと感じました。

ところが不思議なもので、家に持ち帰って眺めてみると、なかなかのものに見えてくるのです。

他の参加者の方々はどのように思われたのでしょうか。皆さん自身の手で一つの作品を完成させたという事で、満足感を持たれたのではないのでしょうか。私は一生の宝とまではいかないかもしれませんが、今回の作品を長くたいせつにとっておこうと思っています。今後もういった企画を、是非続けていただきたいものです。

交通事故、無くなれ

安全部長 寺村 政和
 晴天に恵まれた、十一月三日、北警察署の協力を得て、秋の交通安全教室を行いました。

自転車の正しい乗り方、信号機を使つての横断歩道の渡り方、手信号や、一列走行、又、踏切での確認などを、指導しました。

低学年、中学年、高学年に分かれ、行いましたが、低学年には、乗りなれない自転車の為か、自転車に乗るのがよつとで、手信号を出す余裕のない子供達も、見られました。

踏切とが信号機のない交差点での確認を怠つたり、横断歩道や踏切を、自転車で乗つたまま渡る子供達が多く、今後とも、充分、指導していきたいと思ひます。



オツツツ気をつけて

永年の活躍御苦労さま

昭和六十年度・四日市市PTA大会において、本校PTAの高倉芳子、森昇の両氏が永年のPTA活動に対して表彰されました。今後とも一層御活躍されんことを!!



高倉 芳子氏



森 昇氏

感激の森氏に一文を寄せて頂きました。

この感激を新たに

森 昇

「原稿を書いて下さい」と言われた時、何を書いて良いか迷つた。「PTA活動と青少年教育の振興に尽力した」という事で市長より感謝状を頂いたが、自分としては開校以来四年間、何と言う仕事もせず、部員さん役員さんの足を引っ張つて来たかと反省している。その気になれば誰にでも出来る仕事だと思つた。親として子供の成長過程で学校と家庭が協力していかなければ充分な教育は出来ないと思つた。一人でも多くの親が関心を持ち参加する事だと思つた。何事も行動なくして結果は出ない。100%完成された物はない。どんなに努力をしても批判は付き物、手を抜かず頑張つて来たつもりです。

私にも一言

今、社会問題になつていく「いじめ」・「体罰」。こんな事は、わが校には無関係と思つておりましたが、残念ながら違つていきました。

何とかならないかこの「班」編成

それが「いじめ」じゃない

あるクラスに「ダメ班」というのがあつた。多量の子供を集めた班だそうである。教師が子供に「ダメ」つてレツテルを貼つたら、その子はどうなるのでしよう。子供達は皆、限らない未来を持つ

かと思ひます。まさに大人社会の縮図が、子供社会の中に映つています。教師・親を含めた大人が、もつと真剣に考えていかなければならない問題だと思ひます。

今号のことわざ

- 〇一謎り一笑い三惚れ四風邪 (くしやみ一回は悪口を言われ、二回は笑われ、三回は惚れられ、四回は風邪)
- 〇師走女房に難付けな (忙しい師走には、女の身だしなみが多少乱れていても文句を言ふな)
- 〇夏歌う者は冬泣く (働ける時に何もせずに遊んでばかりいると、後で泣くことになる。さしずめ日本版「蟻とキリギリス」といふところでしょうか)

近況紹介

当地区では親睦を深めるために、いろいろな行事が行われています。本校PTAもこれらに積極的に参加しています。

成績はいまいち

- 〇地区運動会(十月二十七日) 団体別対抗リレーには、俊足の誉れ高い楠木先生をメンバーに加えて必勝を期しましたが、結果は無残にも最下位。
- 〇地区ゲートボール大会 (十一月十日)

ゲートボール大会には二チーム参加。うち二チームは婦人会チームに惨敗。

編集後記

講演会にどのくらいのか参加者があるのかという主催者の心配は、全くの杞憂でした。圧倒せんばかりの迫力で語りかける近藤先生のお話を皆さんはどのように受け止められたでしょうか。

- 〇一面に講演要旨を記しましたが、スペースの関係で盛り込めなかつた含蓄のある歌を紹介いたします。
- 〇家庭とは父厳しくて母やさしそれでいいのだ家は反対だが
- 〇母ちゃんは余程勉強にうらみあり 私に仇を討てというのか
- 〇よい所ほめられたことなしあわれ僕 俺と父とは実の親子か
- 〇師走とかけて 稲妻と解く
- そのころは、

閃光(先公)が走ります 年の瀬になると、人々はやたらせわしげに東へ西へと走ります。師走も走り回らるから、という説もあるようですが、師走は、歳極の語が転じたもの、あるいは、万事為果つの意から出来た語だそうである。ネコの手も借りたいくらい忙しい時に、わざわざ寸暇をさいて投稿してくださつた会員、「けやき」を読んでくださった会員の皆様には心からお礼申し上げます。

※広報部では、皆様のご意見をお待ち致しております。

